

一般演題

- 子宮頸癌末期患者の看護－死の否定から安らかな死に至るまでの過程を考察する－ (田坂芳子, 他) 1
- 若年者子宮肉腫患者看護の一例 (小松玲子) 2
- 老人訪問看護と死の臨床 (大倉透, 他) 3
- 腎移植における死の恐怖と不安について (谷荘吉, 他) 4
- 死の臨床における個人性について (隈寛二) 6
- 死にゆく患者の家族の心理 (河野友信) 7
- 過去10年間の死に関する文献の動向－看護関係詞を探る－ (梅田嘉子, 他) 8
- 病院における死の実態 (福間誠之) 10
- 末期患者と家族のケア (中川俊二) 11
- 死にゆく患者と家族の関係 (河野博臣) 12
- イギリスのホスピス (柏木哲夫) 14

特別講演

- 死にゆく患者の心理 (辻悟) 16

シンポジウム

- 死にゆく患者と家族のケア
 1. 医師の立場より (福間誠之) 26
 2. 看護の立場より (森道子) 28
 3. 臨床心理の立場より (上野轟) 30
 4. ケースワーカーの立場より (竹内一夫) 33
- 討論 36

事務局だより 表紙4

第12回死の臨床研究会の記録

特別講演

臓器移植をどうみる

梅原 猛・1

ー伝統思想にそって

E・キュープラ・ロスによる生死超越のワークショップ

ト部 文麿・7

およびその日本移行について

シンポジウム

ターミナル・ケアにおける宗教的援助の可能性

アルフォンス・デーケン・13

キリスト教の立場から

松山 智治・15

無宗教の立場から

水谷 幸正・17

仏教の立場から

片山 文彦・19

神道の立場から

丸山 敬子・20

新宗教の立場から

・23

討論

症例検討会のまとめ

ーターミナル・ケアにおける症例検討会の課題

柏木 哲夫・31

一般演題

- 末期がん患者の不眠・不穏に対する対応・・・平賀 陽一・2
- 癌性陣痛ワークショップ参加者、厚生省計画研修医・看護婦の癌性疼痛アンケート結果・・・横川 陽子, 他・3
- 腫瘍熱におけるナプロキセンの効果—解熱効果と身体及び心理変化について・・・渡辺 裕之, 他・4
- 末期癌患者の疼痛治療における自他覚的評価・・・福岡 和也, 他・6
- 三叉沖縄痛を作った末卿払駄弟の窟杖へのアプローチの試み・・・山内八重子, 他・7
- 脳死患者の家族への援助—看護体験の振り返りを通して・・・須部由美子, 他・8
- 死別後の遺族へのケアの必要性について考える—遺族へのアンケートを通して—・・・飯塚 京子, 他・9
- 進行性”植物状態”にある兄弟および、その家族へのケア・・・飯島克巳, 他・10
- 「医療と宗教を考える会」の分科会「山鳩の手紙」—第1報・・・太田重二郎, 他・12
- ビハーラ」構想について—呼称の提唱から現在まで・・・田宮 仁・13
- Death Educationの仏教的方法論・・・佐藤 雅彦・15
- 聖隷ホスピスにおける宗教的援助の実情・・・佃 和男・16
- 死に対する佛教的視点民族的感情・・・中野 東禅・17
- 平安なる最後を迎えるために・・・蓮寺 締成・18
- わが国の古典に見える臨死者の痛み・・・藤木 雅清・19
- 進行肺癌患者の味覚異常の検討・・・前田 光一, 他・20
- 末期癌患者の栄養指導について・・・阿部 巴, 他・22
- ターミナルケアと病院給食・・・橘 雅子・23
- 病院における死の実態—第2報・・・福間 誠之, 他・24
- 受容の死を通して死への援助を学ぶ・・・中山 康子, 他・25
- 望ましい死 —その一症例・・・平野 陽子, 他・26
- 住宅における平安な最期・・・佐藤 智, 他・27
- 養護教諭志望学生に村する死への準備教育 (Death Education) —第一報・・・太田重二郎, 他・29
- 柩の準備教育のありかた—第5回生と死を考えるセミナーのアンケート調査の結果から・・・アルフォンス・デーケン, 他・30
- 終末期患者に学ぶ—胃癌の症例より・・・船碓 直実・31

- 臨終に関する看護婦の調査から・・・高田 節了, 他・33
- ターミナル・ケアに対する看護婦等の意識調査・・・渡辺ミツエ, 他・34
- 末期癌患者のニードとその意味づけについての一考察・・・濱口 恵子, 他・35
- 看護学生の成長を動機づけた実習場面の分析・・・甲斐 一孝, 他・36
- 終末期看護の基礎教育プログラム作成に向けて(その5)－研究発表からの終末期看護の学び・・・阿部 千鶴, 他・37
- 生きがい療法 モンブラン登山報告－(その1) 医療の立場から・・・伊丹 仁朗, 他・38
- 生きがい療法 モンブラン登山報告－(その2) 闘病者の立場から・・・野村 郁男, 他・40
- 福岡パレント・グループ7年間の経過報告・・・阿蘇品スミ子, 他・41
- ターミナル・ケアにおけるソーシャルワーカーの役割とは何か－第1報・・・田村 里子, 他・43
- 一般病院の指導的立場にある医師達の終末期がん患者に対するかかわり方について－アンケート調査からの一考察・・・山口 晃, 他・44
- 一般病院におけるターミナルケアの可能性とその限界・・・山崎 章郎・45
- 筋萎縮性側索硬化症患者のターミナル・ケアについて考える・・・福山 公子・46
- 末期癌患者と家族の心理－681名のアンケート調査結果の検討・・・瀬尾 陽介・47
- 末期癌患者の心理状態の改善に対する外泊の有用性について・・・久原 暁子, 他・48
- 遷延性意識障害患者専用病棟における看護から一家族の気持ちを考える・・・常松 あや子, 他・49
- 痛みをもつ末期癌患者の心理的特徴・・・水口 公信, 他・51
- 病状に伴う患者の不安を受容, 傾聴することの重要性・・・遠坂タエ子, 他・52
- ホスピスでケアした患者の実態－3年間の基礎的データ・・・山本 一茂, 他・52
- 実地医家524名に対して行われた住宅末期癌患者－ケアについてのアンケートから考える・・・鈴木 宗一・54
- ターミナルケアの実施を目指して－全看護婦のアンケート調査から・・・茂箆 実好, 他・55
- 白血病の病名告知について－家族が拒否した事例からの学び・・・清水真妃子・56
- 病名告知へのチーム・アプローチ－主婦である悪性リンパ腫患者からの学び・・・落合てるみ・57
- 予後の告知を受けず死を受容した進行性鼻壊疽の一症例・・・印部 厚子, 他・59
- 日本人医療関係者及び一般と在日米国人計1314人を対象としたがん告知に関する意識調査・・・中島美知子, 他・60
- 癌患者の病名認知度と末期に付添った家族の負担についての検討－「家族に村するアンケート調査による」・・・大野 康子・62
- 聖隷ホスピスの告知の実態と看護サイドからのかかわり・・・松浦 千尋, 他・64

- ともに癌罹患の夫婦が病名を告げあい支え合→て妻が夫を先に看とる・・・黒田 裕子, 他・65
- 病名を告げられた患者の心理プロセスから看護を考える・・・木付真知子, 他・66

特別講演

- 喪失と悲嘆への看護の働きかけ・・・小島 操子・68
- 脳神経外科からみた生と死への対応・・・植付 研一・71
- 医療の両面についてーホリスティック・メディスン・・・飯尾 正宏・76

シンポジウム I

- 平安なる最期をむかえるために・・・郷地 秀夫・78

丸口ミサエ・80

白井美智子・82

窪寺 俊之・84

柏木 哲夫・86

シンポジウム II

- ターミナルの患者を一病棟に集めることのメリット・デメリット

心療内科の立場から・・・児島 克美・88

外科病棟の立場から・・・松岡 寿夫・91

看護婦の立場から・・・松本 明子・93

ホスピス病接の経験から・・・石森 携子・95

病院運営の立場から・・・武内 昶篤・97

- 特別発言・・・原 義雄・97
- 司会のまとめ・・・岡安 大仁・98

死の臨床研究会世話人名簿・・・表紙・3

死の臨床研究会会則・・・表紙・4

一般演題

- 治療的自我が高まっていく過程について—臨床実習における学生の変化・・・尾山タカ子, 他・2
- 終末期医療のあり方とDeathEducationの現状について・・・谷 壮吉・3
- 女子大生の死者儀礼に関する知識について・・・橘 雅子・5
- 死に対する大学生の考え方・・・中野 東禅・6
- 「死と看護を考える」学習のVTR効果・・・松尾 典子, 他・7
- 終末期看護の基礎教育プログラム作成に向けて—その4 卒業時の看護観・・・引野 裕子, 他・8
- 看護者に多くのストレスをもたらした, 自己中心的な末期癌患者の看護を通しての一考察・・・神木 里和, 他・9
- 対話的看護実践の一経験例—あたたかい死を迎えるために・・・松沢, 他・10
- 安らかな死への援助—青年期にある白血病患者の看護を通して・・・木村真知子, 他・12
- 自立退院をめざした下半身不随の肺癌告知患者の一例・・・伊達 慶子, 他・13
- 息子が告知してしまった後の看護・・・森本 芳子・14
- チームで行える不安へのアプローチ—ある末期患者に対する看護婦の認識調査を活用して・・・河田 直美, 他・16
- ターミナルケア 患者家族との関わり—入院時家族面接を考える・・・細島 睦子, 他・17
- 末期癌患者の病気・死に関する意識状況と患者の—精神的健康の関係について・・・谷井 康子・18
- 脳神経外科における脳死患者の看護のポイント・・・大塚 真代, 他・20
- 末期癌患者の長期外来通院ケアで学んだ事・・・八木みつる・21
- 在宅ターミナルケアの医療とは何か—27例の経験から・・・佐藤 智, 他・22
- 帰宅を望む末期患者への援助・・・竹内 春夫, 他・23
- 末期癌治療における霊的ケアの有効性について・・・中島修平, 他・25
- がん患者の治療内容別疼痛頻度と鎮痛効果・・・平賀 一陽, 他・26
- がん疼痛患者の鎮痛法の実態・・・尾山 力他・27
- 泌尿器科領域におけるがん性疼痛に対する塩酸モルヒネ内服の効果・・・井上 武夫, 他・28
- 総合的がん性疼痛治療指針確立の試み・・・小金原一夫, 他・29
- がん末期患者の痛みに対する温奄法の有効度・・・古河 伸子, 他・30
- 宗教的痛みの日本的意味・・・藤木 雅清, 他・31

- めでたい往生—成仏してさとりをうる・・・蓮寺 諦成・33
- 「医療と宗教を考える会」の果たす“死の臨床”への役割—殊に仏教老の視点から・・・佐藤 雅彦・3d
- 生きがい療法における悲しみのセルフコントロール—生きがい療法の研究（第7報）・・・伊丹 仁朗，他・35
- 生きがい療法の学習・実践サポート・システムの開発について—生きがい療法の研究（第8報）・・・大熊 正喜，他・36
- 生きがい療法—研修に参加して—卒業時における死生観・・・武田 敏子・37
- 死亡当日の医療をめぐって・・・生田チサト，他・38
- 延命治療の中での死と自宅で死を迎えた場合における家族の悲嘆の相違の比較・・・上原喜代美，他・40
- 死亡当日の医療をめぐって—プライマリ・ケアにおける死亡当日の臨死ケアにおよぼす家族参加と病名告知の考察・・・鈴木 荘一，他・41
- ホスピスにおける臨終時の処置について・・・斉藤 淳子，他・42
- 過去5年間の末期患者に対する蘇生術・・・松岡 寿夫・43
- 末期患者の心理状況の検討・・・玉置 朋子，他・44
- アンケート調査による非告知癌患者の心理変化の検討とそのアプローチについて・・・佐々木義明，他・45
- 予後不良のがん患者における攻撃性について・・・正野 通子，他・46
- ライフサイクルの観点からみた近親者との死別・離別・・・佐藤ゆかり・47
- ペインクリニックに於ける末期癌患者の告知を考える・・・東妻喜見代，他・48
- 患者家族のターミナルケアに関する意動詞査・・・山田 祐司，他・49
- 家族からみたターミナルケア・・・河内 恵美子・50

特別講演

- 死の臨床研究会10年の歩み・・・河野 博臣・52
- 東洋と西洋の死の考え方・・・アルフォンス・デーケン・63

シンポジウム I

- あたたく死を迎えるために・・・72

小島 みち・73

若杉 紅子・77

柏木 哲夫・80

シンポジウム I I

- 末期の疼痛への集学的アプローチ
- 1. 鎮痛薬による治療・・・・・・・・武口 文和・87
- 2. 神経ブロック・・・・・・・・若杉 文吉・90
- 3. 経皮的コルドトミー・・・・・・・・伊関 洋, 他・92
- 4. 下垂体ブロック法・・・・・・・・藤田 達士・91
- 5. 末期の疼痛への心理的アプローチ・・・・・・・・河野 よ信・96
- 6. 痛みのある患者の看護・・・・・・・・吉川 京子・99

- 特別発言・・・・・・・・千原 明・101

死の臨床研究会世話人名簿・・・・・・・・表紙・3

死の臨床研究会会則・・・・・・・・表紙・4

一般演題

- 生きがい療法における集団療法の意義と成果—第6報 生きがい療法実践会のこの1年を振り返って・・・小川留吉, 他・2
- 生と死を考える会の活動内容と今後の課題・・・生田チサト, 他・3
- 末期患者の問題の分析・・・松尾 典子, 他・5
- 終末期看護の基礎教育プログラムの作成へむけて—その3 癌告知への関心度・・・安酸 瑞江, 他・6
- 看護基礎教育におけるデス・エデュケーションの試み—生きがい療法実践会研修に参加して・・・武田 敏子・7
- DeathEducationの評価について・・・谷 壮吉・8
- 死に対する意識の重層構造についての試見・・・中野 東禅・10
- 甲状腺痛告知についてのアンケート調査・・・隅 寛二・11
- 病名告知について—遺族に対するアンケート調査からの考察・・・山口 晃, 他・12
- 痴患者における病名告知の是非—患者を看とった家族へのアンケート調査をもとに・・・横井 尚子, 他・13
- 聖隷ホスピスにおける病名告知の現況・・・千原 明, 他・14
- 患者が病名を知ること・・・村上 玄呂・15
- 一宅僧の怒り—病名告知に関して・・・蓮寺 諦成・16
- 壮年男性が癌を受容し, 死への準備を整えながら逝った一症例・・・黒田裕子・17
- 病名を知っている乳がん患者の死からの学び・・・梅田 嘉子・18
- 病名と予後を告知された胃癌末期患者の看護・・・後藤ナツ子, 他・20
- 癌と宣告された一患者の死に至るまでの経過と, その対応に関する一考察・・・堀内 恵子, 他・22
- 最後まで病名を認めようとしなかった患者の1症例・・・小林紀代美, 他・23
- 手記の出版を生きる目標として病名告知を受け入れた事例を通して学ぶ・・・江藤なるみ, 他・24
- 乳癌患者の予後の告知・・・松岡 寿夫・26
- 痛告知へのアプローチ・・・大鐘 稔彦・27
- 痛患者への病名告知の援助・・・伊丹 仁朗, 他・28
- 告知する側に要求されること・・・井上トク子, 他・29
- 心臓病における病名告知の諸問題・・・福増 広幸・30

- ホスピス開設6か月間の報告・・・岡本 光正, 他・31
- ホスピスケア1年半の総括と今後の展望・・・山本 一成, 他・32
- 一般内科におけるターミナルケアの実践—分散型ホスピス志向2年6か月・ソーシャルワーカーの視点から・・・室谷智子, 他・34
- 在宅ケアにおいてこそ癌の苦しみを共有できる・・・佐藤 智, 他・35
- その人らしい生の全うを支える看護—ホスピスで死亡した1患者の看護を通して・・・高橋 静子, 他・36
- ホスピスのあり方を考える・・・山田 祐司, 他・37
- ホスピス・ホームケアにおける日本と英国の比較・・・紅林みつ千, 他・39
- がん末期患者の家族に対する看護・・・佐藤 礼子, 他・40
- グリーフ・セラピー（悲嘆療法）の試み・・・永田勝太郎, 他・41
- 死にゆく子供の両親への援助・・・森 裕英・42
- 末期癌患者を通して看護を考える—患者としてみた仲間の死・・・大西 久夫, 他・43
- 単身の咽頭腫瘍患者に対する総統的アプローチについて—特に転院に伴うソーシャルワーカーの関わり・・・斉藤 順子, 他・44
- 過去2年間のアンケート調査による癌死亡患者家族の心理・・・熊谷裕子・46
- 儀礼をとり入れた死前後の処置の意義・・・高田 節子, 他・47
- 私の死生観—研修「看護と死」に参加して・・・桜井 陽子・48
- 生と死を考えるセミナーで出会ったKさんとの試み・・・鹿紹 幸子, 他・49
- ジャンボ機墜落事故に関する看護学生の感想・・・橘 雅子・50
- ターミナルケアにおける腫瘍熱に著効を示したナプロキセン・・・三笠 桂一, 他・51
- 腹部膨満による不眠患者へのケタミンの応用・・・平賀 一陽, 他・52
- WHO癌疼治療暫定指針による鎮痛薬の使い方—とくにモルヒネについて・・・武田 文和・53
- 癌末期患者にレスピレーター装着が有意義であった一例・・・小西 満, 他・55
- 癌末期ケアにおける第一線病院の役割・・・郷地 秀夫, 他・55
- 対がん10か年総合戦略—がん患者に対する終末期医療のあり方に関する研究報告・・・芳賀 敏彦・56
- 入院ケアと在宅ケアにおける終末期医療費の比較検討・・・前沢 政次, 他・57

ワークショップ1

- 病名告知をめぐる問題
1. ガン告知をめぐる問題・・・布施 徳馬・60

2. 病名告知をめぐる問題・・・河野 友信・61
 3. 病名告知に関する一考察・・・南 ゆかり, 他・62
 4. オリブ山病院ホスピス病名告知の現況・・・中島実知子, 他・63
- 討論のまとめ・・・65

ワークショップ2

- 長期意識障害患者のケア
1. 長期意識障害児と人間的ふれあいをもてるために―臨床実習指導者の役割について・・・甲斐 一孝, 他・67
 2. 遷延性意識障害患者に対する看護について・・・手島 恵, 他・68
 3. 植物状態患者をかかえる家族からの学び・・・奥村 環・69
 4. 長期意識障害患者と尊厳死の問題・・・福間 誠之・70

特別講演

- あなたとわたしの死生観―医療を中心として・・・金子 仁郎・72

シンポジウム

- ターミナルケアにおける家族の問題
1. 本人への臨終の告知―カトリックの場合・・・東門陽次郎・80
 2. 仏教の立場から・・・池見 澄隆・81
 3. 義父と義母を看とって―家族からの注文・・・乾 成夫・83
 4. 医師の立場から・・・柏木 哲夫・88
 5. 看護婦の立場から・・・河内忠美子・90

死の臨床研究会世話人名簿・・・表紙・3

死の臨床研究会会則・・・表紙・4

一般演題・ワークショップ

- アジアにおける死生観の違い—第5回アジア医学生会議より・・・野村 正孝, 他・1
- 死後の臓器寄贈に関する女子大生の意識調査・・・橘 雅子・2
- 終末期看護の基礎教育プログラム作成に向けて—その2. 臨死看護の体験が看護観に及ぼす影響・・・安倍 千鶴, 他・3
- 逃げの姿勢から交わりをもてるようになった看護過程を分析し, 末期ケアと学生指導のあり方を考える・・・尾山タカ子, 他・5
- 医学・看護教育におけるデス・エデュケーションのカリキュラム試案について・・・谷 壮吉・6
- 卒前医学・看護教育におけるターミナル・ケア・・・池田 博, 他・7
- 第2回サマー・ワークショップの報告—ターミナル・ケアにおけるシミュレーショントレーニングを中心に・・・釜野 安昭, 他・9
- 仏教における生死苦の解脱・・・皆川 広義・10
- 死んで還帰する彼岸の世界・・・蓮寺 諦成・11
- 日本人の成仏観と死の受容・・・中野 東禅・12
- 浄土教思想とターミナル・ケア (その2) —デス・エデュケーションとの関係における問題点・・・田宮 仁・13
- 末期患者の宗教的必要性への対応・・・斉藤 晃道・15
- 脳死患者家族の死の受容・・・福岡 誠之・16
- 末期患者の家族に配慮できること・・・渡会丹和子・17
- 臨死患者家族への介入—治療スタッフ以外の第三者の場合・・・鈴木 道子, 他・18
- CureかCareか—意識不明に阻った患者を救命した時の家族の気持ち・・・鎌田 きよ, 他・19
- 聖隷ホスピス3年半の契機から・・・千原 明, 他・21
- ホスピスオープンソ6か月を迎えて—その現状と将来への展望・・・柏木 哲夫, 他・22
- 末期医療と経済・・・河野 友信・23
- プロンプトン・カクテルの管理・・・新阜 宏子, 他・24
- 癌性疼痛治療指針案について・・・小笠原一夫・25
- 肺癌における死と消化性潰瘍の合併について・・・今井 照彦, 他・26
- 「安らぎ」そして「感動」を与えるために—ソーシャルワーカーの役割・・・関根真希子, 他・27
- 小児脳腫瘍の忠君の箱庭療法を通しての心身のインテグレーション・・・河野 博臣, 他・29

- 光体験によりうつ病性昏迷より急速に回復した1例……………池田 国義・30
- 生きがい療法による死への対処法—生きがい療法の研究（第2報）……………伊丹 仁朗, 他・30
- 末期癌患者に対する交流分析を用いたアプローチ……………村岡 衛, 他・32
- 病名告知の背景と経過……………村上 国男・33
- 末期がん患者の心身医学的考察—末期がん患者へのケア……………中川 俊二・34
- 死と終末期についての調査……………黒田 輝政, 他・35
- 「生と死を考えるセミナー」のアンケートの分析……………橘 雅子, 他・37
- 死に関する意識調査……………松岡 寿夫・38
- ターミナル・ケアに関するアンケート調査……………池田よしえ, 他・39
- ターミナル・ステージにおける患者とその家族のニーズを知る—死別後の家族の調査から……………北川 昌代, 他・40
- 痛末期ケア, 家族と病棟スタッフの納得度の相違—アンケート調査から……………小林ひとみ, 他・42
- 癌患者のセルフ・ケアの問題……………河野 博臣, 他・43
- 生きがい療法研究（第3報）—生きがい療法実践会の活動について……………柿元 洋子, 他・44
- 「生と死を考える会」の活動について……………黒田 裕子, 他・45
- 「生と死を考える会」の活動報告……………生田チサト, 他・46
- 舌口腔底腫瘍の単身患者への長期的アプローチ……………武藤利恵子, 他・48
- 癌死患者の入院生活と死に向かう心について……………室谷 智子, 他・49
- 死にゆく人の看護のあり方を考える……………大谷真由美, 他・50
- ターミナル・ケアにおけるチーム・アプローチの実際……………井部 俊子・51
- 当院におけるターミナル・ケアの進め方……………森本 接夫・53
- がんの在宅終末ケア—在宅終末ケアの経験から……………紅林みつ子, 他・54
- 人工呼吸装置着の末期ALS患者の在宅看護—ボランティア・ナースの試み……………梅田 嘉子・56

特別講演

- 患者の権利とバイオエシックス—国際的動向と展望をふまえて……………木村 利人・58
- 生命操作時代における医療の問題点……………坂上 正道・70

シンポジウム

- ターミナル・ケアを困難にする問題点

1. 看護部長の立場から 寺島 敏子・78
2. 癌専門医の立場から 種村健二郎・81
3. 訪問看護の立場から 大石 好子・83
4. 外科医の立場から 松岡 寿夫・85

- 討論 87

死の臨床研究会世話人名簿 表紙3

死の臨床研究会会則 表紙4

一般演題

- 末期患者を介護した家族に対する面接調査 (大原昌樹, 他) 1
 - 女子大生の死別の体験について (橋雅子) 2
 - ターミナル・ケアについての家族の希望 (柏木哲夫, 他) 4
 - 本院における看護職員のターミナル・ケアに関する意識調査 (山中孝子, 他) 5
 - アジア各国の死生観の違い (大原昌樹, 他) 6
 - 重篤な合併症を伴う癌患者・家族の心理的变化—STAI, Egogramの推移から (岡田麗江, 他) 8
 - 遺作版画よりみた末期がん患者の心理状態 (松岡寿夫, 他) 9
 - 当院における「死」の多様性についての一考察 (石谷邦彦, 他) 10
 - 本院におけるターミナル・ケアについて (吉野和代, 他) 12
 - 死にゆく患者の言動についての一考察 (岩崎栄, 他) 13
 - 死の受容 (中西通泰) 14
 - 怒りをもった末期癌患者の背景 (百瀬敏光, 他) 15
 - 悪性疾患患者の看護過程を分析し看護のあり方を取り出す (尾山タカ子, 他) 16
 - 死にゆく患者と医師の間で—ある肺癌患者の外泊をめぐって (山中祥子, 他) 18
 - 看護の中の死—平和な死への援助とは (濃野ヒロ子, 他) 19
 - ガンの生きがい療法 (伊丹仁朗, 他) 20
 - 癌性疼痛における麻薬 (主として塩酸モルヒネ) の使用経験 (小村美智子, 他) 21
 - プロンプトン・ミクスチャーの使用経験から
—著効した症例, 鎮痛剤の投与を拒んだ症例報告 (藤川孝子, 他) 22
 - 在宅終末ケアにおける (患者および家族の死の受容をめぐって) —医学的判断が果たした役割— (紅林みつ子, 他) 23
 - 癌末期患者の在宅ケアの条件 (郷地秀夫, 他) 25
 - 悪性疾患で子供を失った母親へのアプローチ (河内恵美子, 他) 26
 - ターミナル・ケアにおける継続看護の重要性について (石森携子) 27
 - 患者の死ぬことが経済的な意味を持つ事例のターミナル・ケアにみられる家族の精神力動について—じん肺労災患者を中心に (長門宏, 他) 28
 - ターミナル・ケアのチームアプローチによる症例検討 (若狭紅子, 他) 30
 - ターミナル・ケアのチームアプローチの機能と効用について (岡田定, 他) 31
 - ターミナル・ケアを困難にする問題の所在の分析—福岡パレント・グループの4年間の活動の中から (佐野公子, 他) 33
 - 私たちのグループアプローチと死の受容—57歳の胃ガン患者の死を通して (半田光子, 他) 34
 - 日本におけるホスピスのあり方を考える—聖隷ホスピスでの実践の中から (佃和男) 35
 - 小児看護における死—6歳の悪性腫瘍患児による学生の学び (吉岡啓子) 37
 - 医学部卒前教育における死の臨床教育について (池田博) 38
 - デス・アンド・ダイイング・エデュケーションの要請 (蓮本締成) 39
 - 終末期看護の基礎教育プログラム作成に向けて— (その1) 学生の”死に対する認識調査” (引野裕子, 他) 40
 - 生の頂点としての死—看護学生とともに人生を考える (澤田愛子) 41
1. Terminal Care と Death Education (谷荘吉) 43
 2. 死の受容の過程を癌末期患者から学ぶ (高見沢亮子, 他) 44
 3. 医療への不信感から口を閉ざしてしまった臨死患者からの学び (柴田秋江, 他) 45
 4. 代わりの意義を教えられた2症例 (中島美知子, 他) 46
 5. ケースを通して自分自身をふりかえる (野村るり子) 48
 6. ターミナル・ケアにおける看護者の変化を考察する—全身温熱療法を行った患者65名のムンテラと看護婦のかかわりを分析して (藤村淳子, 他) 49
 7. ターミナル・ケアの患者の看護と他科・他病院医師など医療スタッフとの関係—大学病院の問題 (鎌田きよ, 他) 50
 8. 癌患者およびその家族による末期医療へのかかわり (佐々木妙子) 52
 9. 「生と死を考える会」の活動および学習内容と今後の展望についての報告 (生田チサト, 他) 53
 10. 死を受容する仏教的人間像 (仲野東禅) 54
 11. 末期医療におけるethicalな諸問題について (河野友信) 56

シンポジウム

- 末期がん患者の生命の質について

1. 心理学の立場から（杉山善朗）・・・・・・・・58
2. 哲学と人間学の立場から（アルフォンス・デーケン）・・・・・・・・59
3. 看護婦の立場から（西森三保子）・・・・・・・・62
4. 医師の立場から（原義雄）・・・・・・・・64
5. 患者と僧侶の立場から（柿本謙誠）・・・・・・・・66

- 討論・・・・・・・・70

死の臨床研究会世話人名簿・・・・・・・・表紙3

死の臨床研究会会則・・・・・・・・表紙4

第7回死の臨床研究会プログラム・・・・・・・・表紙4

一般演題

- ターミナルケアにおけるチームナーシングと看護婦一人の役割— (河内恵美子) 1
- 末期医療のタイムスタディ (村上国夫, 他) 2
- 自治医大におけるターミナルケアの現状と問題点—ターミナルケア研究会の活動を中心に— (須田啓一, 他) 3
- ターミナルケアへのチームアプローチ (角谷礼子) 4
- 当院における”ガンに関する悩み相談会”の発足と症例検証から (山口晃, 他) 6
- 医療従事者の死に対する態度—背景を主としたアンケート調査より— (板垣恵子, 他) 7
- 学生の臨床実習から終末期看護を考える (倉田トシ子, 他) 8
- 卒後教育におけるDeath Educationの基本的方向について—患者ケアの研修による看護婦の意識変化に基づいて— (馬場昌子, 他) 9
- 臨床医学教育におけるDeath Educationの必要性について (谷荘吉) 11
- 死の臨床と宗教 (蓮寺締成) 12
- 浄土教思想による末期患者のケア (その1) (田宮仁) 13
- 死を間近にしてみる夢 (喜多学, 他) 14
- 末期医療の現場の中で問題となった患者に対する心理的検死の試み (平山正美, 他) 15
- 病名を知っていた末期患者のケアを通して (角方瑞枝, 他) 17
- 15. 「死の教育」 (Death Education) の必要性—日本型ホスピスの疑問— (斉藤武) 18
- 日本におけるホスピスマーブメントをめぐる諸問題 (柏木哲夫) 19
- 地域医療としてのホスピスコミュニティの横想について (河野博臣, 他) 20
- 最後の瞬間まで死にゆくことを家族から拒絶され, 別れの言葉を交わすことなく赴いた事例に学ぶ—死の臨床における家族の必要性について— (河野友信) 22
- 安らかな死への援助を考える—死ぬことを拒否しながら死に臨んだケースよりの学び— (近藤裕子) 23
- 癌末期患者への病名告知—告げる側の条件についての—考察 (郷地秀史) 24
- 病名を知って安楽死を望んでいる患者, 家族と接して (鶴田元子) 26
- 癌と告げられたことにより安らぎを得た一例 (鎌田きよ, 他) 27
- 癌患者のセルフ・ケアとしてのグループイメージ療法の実際 (河野博臣, 他) 29
- 病院ケアに対して在宅ケアの優位性—とくにターミナルケアに関して— (紅林みつ子, 他) 30

- 福岡パレントグループの死の臨床に対する取り組み（第3報）（山崎美佐子，他）・・・31
- 末期癌患者の疼痛対策－塩酸モルヒネ坐剤の効果－（佐藤尚，他）・・・33
- 直腸腫瘍の女子単身患者への長期的アプローチ（高津直美，他）・・・34
- 末期患児およびその家族に対するサポートのあり方についての検討－骨肉腫患児の看護を通して考える－（佐々木智子，他）・・・35
- 危篤時のCare－死に目に会うことへの家族の気持－（栗屋典子，他）・・・36
- 末期患者の個室移動に関する問題（渡会丹和子，他）・・・38

特別講演

- ”あるがまま”の死生観（岩井寛）・・・40

シンポジウム

- 末期医療におけるコミュニケーションについて－医療チーム間，家族を含む－
- 医師と患者の関わりに関与する看護婦の役割（小松玲子）・・・47
- 末期医療とコミュニケーション（飯田美智子）・・・49
- 一般病棟において患者と看護婦のコミュニケーションを阻害する看護上の問題について（川名典子）・・・52
- ソーシャルワーカーの援助の必要性（小川敬）・・・55
- 訪問看護の体験から（島田妙子）・・・56
- 討論・・・58

死の臨床研究会会則・・・表紙4

世話人名簿・・・表紙4

一般演題

- 家族の気持ち (梅田嘉子, 他) 1
- 末期患者の家族に関わって考えたこと—患者の死後の死後の反応を考える— (金丸幸子) 2
- 病名を知った癌患者の看護を求めて—日記にみた医療者への評価から看護の方向を探る— (藤村涼子, 他) 4
- 終末期に自宅療養ができた白血病患者の2症例—遺族を訪問して考えたこと— (須田啓一, 他) 5
- 壮年期癌患者の1例—末期患者を外泊後, 退院させ延命と精神安定効果を認め安らかな死に至らせた例について (鎌田きよ) 7
- 入院時よりターミナルステージを自覚していた1症例 (田中弘子) 8
- 小児ガン患者への長期に渡るケースワーク (古屋克彦, 他) 10
- 試験開腹に終わった患者の自活への導き (河原道代, 他) 11
- 否認の段階の重要性について (隈寛二) 12
- 福岡パリント・グループの死の臨床に対する取り組み (第2報)—1年間の歩みの中で生まれたもの— (阿蘇品スミ子, 他) 13
- パリント方式による末期ケアの実態—悪性リンパ腫のケアを通して— (毛利百合子, 他) 15
- ガン患者の心身医学的考察—末期患者へのケア— (中川俊二) 16
- 第3領域の問題と死の臨床—心身医学的立場から— (河野博臣) 18
- 病院職員のターミナルケアに対する意識調査 (福間誠之, 他) 19
- 看護学生の死生観について—2, 3年生のアンケート調査より— (中光静子, 他) 21
- 都立駒込病院における末期患者の実態 (河野友信) 22
- 私は知りたい—アンケートによる疾病の意識調査— (竹淵弥恵子) 23
- 国立病院療養所における末期医療への関心—調査報告— (村上国夫, 他) 24
- CureとCareの狭間で (建野正毅, 他) 25
- 末期患者に対する高カロリー輸液の適応と限界 (竹下俊文, 他) 26
- 看護における死後の処置 (藤腹明子) 28
- 末期患者と死の恐怖を闘ってみて (阿部美江子) 29
- 重傷脳損傷患者の家族への対応 (平山正美, 他) 30

特別講演

- 医学の歴史における末期医療 (中川米造) 32

シンポジウム

- 末期患者ケアの現場における諸問題
 1. ナース (外科) の立場から (細谷和子) 44
 2. ナース (内科) の立場から (石森携子) 47
 3. 医師の立場から (岡本雄三) 49
 4. ソーシャル・ワーカーの立場から (山本治子) 52
- 討論 53

一般演題

- クリティカル・ケアとターミナル・ケア (福間誠之) 1
- 在宅ケアとミニ・ホスピス—3年間のターミナル・ケアの実践から— (鈴木莊一) 2
- 福岡バリエーション・グループの死の臨床に対すとりくみ (永田勝太郎, 他) 4
- 晩期癌患者は何を訴えるか—実際例を通して— (河野博臣) 5
- 予後不良児を持つ母親へのアプローチについて (河内恵美子) 7
- 1970年代における疼痛のケアの動向 (渡会丹和子, 他) 8
- ホスピスと無常院 (藤腹明子) 9
- 死の転帰をとった白血病患者へのソーシャルワーカーのアプローチ (荷見千草, 他) 12
- 末期患者の宗教心 (河野友信) 13

シンポジウム

- 痛みのコントロール
- 1. 麻酔科の立場から (水口公信) 15
- 2. プロンプトン・ミクスチャーの使用経験から (間瀬美和子) 16
- 3. 精神科医の立場から (平山正美) 19
- 4. 看護の立場から (福田幸子) 22
- 5. 特別発言 (Dr. Peter Griffiths) 24
- 討論 27

事務局だより 表紙4
